



No.8. 2020. 11. 02

色彩に出会うきっかけをつくってくれたのは、高校を卒業したのちに過ごしたドイツのシュタイナー学校でした。

シュタイナー教育にはエポック授業というものがあります。エポック授業とは、1週間から2週間にわたり朝の2～3時間を使い、一つの分野を集中的に学ぶ授業です。私のいたところでも、天文学・地質学・植物学、彫像・芸術、ボートマ体操・演劇など、毎週それぞれの専門分野の先生を迎えての授業がありました。その一つとして、絵画の時間がありました。その頃はまだまだ言語を自由に操ることができなかったことと、美術系のことがまあまあ得意だった（かな？）こともあり、言葉をあまり必要としない絵画の授業が始まるとのことで、とても楽しみにしていました。

いよいよ始まった絵画の授業では、白い紙を張った板がイーゼルに乗せられ、それぞれに用意されていました。そして筆と筆を洗う水の入った瓶とタオル。これから何が始まるんだろうかとワクワクしていました。なにか景色を描くのか…何かのテーマが用意されるのか…それとも自分の感情を表現したりとか…？そして皆に黄色の絵の具の液体が入った瓶がいきわたると、先生が一言。

”黄色を描いてください。”

・・・私の頭の中は”？？？”でいっぱいになりました。それでも”黄色を描く”ということ、自分なりにいろいろ考えた挙句、そうだ！星を描こう！と、私は画面の上のほうに大きな星を描きました。なかなか素敵な星が描けたので、満足な気持ちとともに、先生の次の言葉を待っていました。一人ひとりコメントとアドバイスに回っている先生が私のほうに来ました。そして、ちらっと私の星を見ると一言。

”これは黄色ではないわ。”

そしてあろうことか何の断りもなく、大きな星を躊躇なく消してしまいました！私は一連の出来事にびっくりしてしまい、何も言えずにいました。そこで先生はまた一言。

”黄色を描くのよ。”

そして先生はいつもの軽やかな足取りで、次の人のところに行ってしまいました。

再び真っ白になった紙を目の前に、私はとても混乱していました。黄色（い星）を描いたのに、あれは黄色ではなくて…黄色を描けて…黄色っていったいなんなんだ？？？考えれば考えるほどますます混乱してしまい、なにもできずにただ立ちつくしていました。頭も心も混乱したまま、ただ時間だけが過ぎていくので、まったくもって困ってしまった私は、先生の所に行き質問をしました。

”私は黄色が描けません。どうやって黄色を描くのですか？”

すると先生はなんだかとても優しい顔で、一言。

”あなたが黄色になりなさい。”

その言葉は今でもはっきりと覚えています、その言葉を聞いた瞬間はまるで脳天に大きな雷が落ちてきたような衝撃でした。あまりの衝撃に私は教室から飛び出して、自分の部屋に閉じこもりました。窓から外を眺めながら、涙が滝のように流れていました。なんで涙がこんなに出るのかよくわからなかったのですが、たとえるならば、私の住む小さな世界を覆っている分厚い殻が、思ってもいなかったタイミングでハンマーの一撃を食らい、うっすらと入ったヒビの間から、新しい世界の光が漏れ出している。そんな感じでした。

その後一週間、”黄色を描く”時間が続いたのですが、相変わらずよくわからず、仕上がった絵は、当時の自分の中の”上手く描けた絵”の基準からは大きく外れた出来栄で、なんだかなあ…という最終日を迎えました。

その後、そんな出来事も忘れていたところに、ふとしたきっかけで”黄色”を思い出し、まるで偶然が重なり、そしてひたすら毎日”黄色を描く”という、なんともクレイジーな学校に5年間通うことになるのです。それが、私と色彩との出会いでした。

ぴっぴの森での色の時間では、”にじみ絵”という技法（水で濡らした紙に、水で溶いた水彩の絵の具をのせていく方法）をもちいて、色彩そのものを体験しています。

シュタイナーは*教育芸術についての講演会の中で
”たとえばできるだけ早く、こどもを色彩の世界に親しませるようにしたり、教師がゲーテの色彩論で述べられていることを、自分自身の深い部分に受け入れるならば、それはとても良い効果を及ぼすことになるでしょう”
という言葉を残しています。（ゲーテの色彩論についてはまた別の機会に…）

ただ、こどもたちが色彩と遊んだからといって、よい点数がとれるわけでもないし、頭がよくなるわけでもありませんし、作品も形のない色彩が混ざりあっているだけで、…大半はいろんな色が混ざり合って茶色くなってしまっていたり…何かや誰かが描いたものと比較しようがないし、”上手にかけたね〜”などと、どこを褒めていいのかもわからない…あの絵を見て、戸惑う大人は少なくないと思います。

けれども、こどもたちは瞬間、瞬間、を生きた色彩の中で、まさに生きた体験をしています。真っ白い紙の上で広がり、互いに混ざり合い、新しい色を生み出していく色彩たちは、こどもたちの柔らかな心と重なり響き合います。そして、その体験を通して、こどもたちは”美しい”と感じる感性を自分の中に根付かせていきます。そして、”美しい”と感じる感性は、将来”生きた道徳”につながります。

ある日の色の時間に、Aくんが茶色く混ざった色彩を見て、”わ〜い！悪い色だ！”と言いました。その時のAくんは、彼の中で美しいと感じないものを”悪い色”と表現したのです。私は思わずAくんに”そう！Aくん、そういうことなんだよ！”と、つい嬉しくなって言ってしまったことは置いておいて…こどもたちの中で、”美しい”と感じる感性が、この森の中で確実に育まれていると確信した瞬間でした。

：小林郁絵

木 森のみちくさ Sketchbook

11月

森の木々が一年で一番鮮やかに色づく季節がやってきました。
山桜、ウレシなどの紅葉から始まり、桑の葉、イタヤカエデ
ダンコウバイの黄色、イロハモミジやミズナラの赤が森を
色どり、最後にカラマツが黄金色の雨をふらせ、森は
静かに季節を迎えます。紅葉は葉の中にある「クロロフィル」
という緑の粒が寒くなると分解され、黄色の色素「カロチノイド」
が目立つようになります。そしてそこに日光が当たると



カラマツ

「落葉松」と書いて

カラマツともよぶことがある

ように、松の仲間でも落葉する樹木。軽井沢の森
浅間山一帯が11月中旬～美しい黄金色に変わります。
ハル浅間山からの黄色の秋景は見事!!



イタヤカエデ

「葉っぱのフレディ」

という絵本にも登場して
いる葉と同じ仲間の葉。
軽井沢にはカエデの種類
が10種類以上もあり、どれも
皆、美しく
色づきます。

「アントシアニン」がつくられ赤色
にみえるのです。といっても森に
おらている葉は「赤」「黄」と
一言では片付けられない
ほど複雑で美しい色合い
ですね。今年はぜひ、自然がおりて
美しい色に目を向けてみてはいかがでしょうか。



イロハモミジ (葉々赤)

紅葉といえど、この葉の
色づき様を思い浮かべる人も
多いのではないのでしょうか。
黄→オレンジ→赤とし本々で様々な
色が楽しめるのも魅力ですね。

ダンコウバイ

息子はこの葉の色をみて「バナナみたい～」
といていて♪ 森の中でダンコウバイの
黄葉があると、そこだけパッと光が
あたったように明るくなるように
なります。

今日の Teatime

ススキ茶(芒)



秋の七草のうちのひとつで、スフスフ育つ木という意味
からススキといわれるようになったとか。
ススキの葉を水で洗ってほぐして
適当な長さで切り土鍋でから煎り
すると香ばしく、ほろ苦茶のよう
に飲みやすいです。利尿、解毒
作用、風邪や高血圧予防に
効果的です。 天日干しの必要もないので
お手軽です。



ミズキ

少し厚みのある葉で
淡い「びび色」～「金銀樹」
のような色合いで、ひろひろ
森にもたくさんおらいます。
時々、えんじ色や、黄緑が混ざ
りしているのも美しい。



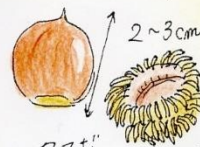
ミズナラ

ほてりとてかわいらしい
どんぐりの実が特徴の
種類。ひろひろの森には
どんぐり と呼ばれる種類の
木がコナラ、ミズナラ、クヌギと3種類あります。

それぞれのどんぐり、帽子、葉を拾って



コナラ



ミズナラ



クヌギの帽子

比べてみるのも
楽しいですよ

《 11 月のお知らせ 》

このぴっぴだよりをお渡しする時は、やまもり祭が終わっています。たくさんの皆さまが心をかけ、労力を惜しまず、楽しんで準備して下さっていた日々を眩しく拝見していました。ありがとうございます。きっと、参加された皆さんが、「今日は好い一日だったあ」と心地好い音色と共に感じたことでしょう。お疲れさまでした。ありがとうございました。このぴっぴだより配布は当日の状況を考えて、配布を遅らせて頂きました。

紅葉と落葉が始まってきた、ぴっぴの森。いよいよ晩秋の季節。一日として同じ環境はないぴっぴの森。秘密基地を作り始めたおおくりさんたちに刺激を受けたのか、清里キャンプ後、結束固いくりさんたちの秘密基地も…。自分たちのものではないけれど、「秘密基地に行こう！」の声が聞かれるまつぼっくりさんたち。混ざり合い、笑い合い、重なり合い、ぶつかり合い、話し合い…の秋の豊かな日々です。

見学の方が共通に感心されるのは、

- ・けんかも含め、子どもたちだけで解決する姿
- ・自分で着替える姿

泥んこ池という遊び場ができてからの泥だらけはお見事！大きな漬物入れやタライに水をはり、日によってはお湯を入れお風呂になっています。日々、子どもたちが使えるシャワーがあったらなあと思います。自分たちで考えて身体を洗い、着替えたい時に着替える姿に、見学の方々は「一般の幼稚園や保育園では、はい、着替えの時間ですと一斉に着替えるのに、ぴっぴの子どもたちは自分でそれを考えているんですね」一番着替えの多い、まつぼっくりさんも「助けてえ」と言いながら、一人で着替えを頑張っています。どんぐりさんは、えりんこたいそう時の靴下の脱ぎ履きを頑張っていますよ。

おおきくみの山登りは、朝の想像以上の雨脚に大人は戸惑いましたが、いつもと変わらず、難なく雨の中を歩いている子どもたちに、楽しんで歩いている子どもたちに、たくさんの力をもらいました。1時間ほどで雨はおさまり、頂上にはご褒美のような絶景が待っていました。四方見渡す限りの山々。浅間山から妙義山・荒船山など群馬県の山々、八ヶ岳から蓼科山・美ヶ原そして北アルプスの峰々。なんと槍ヶ岳も！佐久平の景色も美しかった！絵本の「山のでっぺん、空の真ん中、雲の上」を実感しました。

稲刈りもありありがとうございました。脱穀の後、粳摺りをして、嬉しい実りをいただく時になります。ぜひ、新米まつりも楽しんで、味わってくださいね。

：眞弓

○11 月の予定

- 2 日（月） 色の時間（アートセット持参）
- 5 日（木） 9：30～ぽろぴっぴ保護者会（バイブルメインホール）
- 6 日（金） えりんこたいそう（バイブルメインホール）
- 7 日（土） スタッフ研修日
- 8 日（日） 森作り

9 日（月） 芸術の時間①
10 日（火） 新米まつり
12 日（木） 芸術の時間②
14 日（土） ぽろびっぴ
16 日（月） 色の時間（アートセット持参）
17 日（火） 森の開放日
19 日（木）～20 日（金） おおくりキャンプ
20 日（金） えりんこたいそう（バイブルメインホール）
24 日（火） ちょこミック
くるみの日
27 日（金） 9：30～保護者講演会（バイブルメインホール）
びっぴだより配布
28 日（土） ぽろびっぴ
30 日（月） 色の時間（アートセット持参）

○11 月ぽっけ開室日

4（水）、5（木）、6（金）、9（月）、11（水）、12（木）、13（金）、16（月）、
18（水）、19（木）、20（金）、25（水）、26（木）、27（金）、30（月）

○保護者講演会

日時 11 月 27 日（金）9：30～
場所 バイブルメインホール
講演者 柴田愛子さん
タイトル 「おとなのつもり こどものつもり～子育てのイライラはどこから？」

愛子さんは中澤の友人です。1982 年幼稚園「りんごの木」を設立され、そのありきたりではない考え方は保育者たちに大きな影響を与えました。この前日は大田区で、次の日は岐阜県関市で、講演会があり全国を飛び回っていらっしゃいます。

出版した本も多数。日本絵本大賞を受賞した絵本「けんかのきもち」や「ぜっこう」「ありがとうのきもち」その他の絵本。「子育てを楽しむ本」「こどものみかた春夏秋冬」「親と子のいい関係」「今日からしつけをやめてみた」など子育ての本。「それって、保育者常識ですか？」「とことんあそんで、でっかく育て！」など保育の本。

Eテレ「すくすく子育て」にも出演されています。肩ひじ張らない、本音のお話にきっと心動かされると思います。ぜひぜひ、ご出席くださいますように。

○清里キャンプ納入金額変更のお知らせ

GoTo キャンペーンの対象になりましたので、予定額から 12000 円に変更してご請求させていただきます。11 月の保育料に加算させていただきます。

○11 月も実習生の学びが続きます。よろしくお願いいたします。

○サポートスタッフの方をご紹介します。

まきえちゃん

西川真木枝と申します。ヨガ講師と保育士の二つの仕事をしています。

12月から少しの間、保育に携わらせていただきます。

ぴっぴの子どもたちから、自然について教わりたいです。よろしくお願いいたします。

なつさん

木戸奈都と申します。御代田在住の小中高校生の3児の母です。

失敗しまくる我が子たちを横目に、今は育児は半分手を抜き、ローカルビジネスに挑戦中。

ぴっぴは、育児が楽しくなるきっかけを作ってくれた大切な場所。息子がぴっぴを卒業してから、育児も家庭も仕事もそれはそれは色んなことがありましたが、何とか乗り越えられたのも、ぴっぴで紡いだ家族との濃密な時間があったからこそ。今ぴっぴに帰ってこれる幸せを感じております。

ぴっぴの子供たちと赴くままに自由に森の中を駆け回り、豊かな想像力のおすそ分けを頂けるのを楽しみにしております。

こずえさん

森こずえと申します。現在、中学2年生になる息子の太和（ヤマト）が『ぼろぴっぴ』にて、小学校4年生になる息子の武蔵（ムサシ）が、『ぴっぴ&ぼろぴっぴ』にて大変お世話になっております。

今回、このような機会をいただきました事に心から感謝の気持ちでいっぱいです。

皆様とご一緒に「わぁ！！」という瞬間に沢山出会える事ができたらいいなぁ～と思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

あっちゃん

ぴっぴで育った息子は15歳になりました。今でものびのび成長中です。そしてこの度このような形で私がぴっぴに戻って来れたこと、ぴっぴと再び関わりが持てることがとっても嬉しいです！今度は私自身が森の中にどっぷりと浸かって子供たちと過ごす時間を思いっきり楽しみたいですね。よろしくお願いいたします。

榎本敦子（えのもとあつこ）

よねちゃん

関西出身で、大学卒業から東京へ。息子（現在小2）が生まれて、よちよち歩き出すようになり、道端に落ちているタバコの吸い殻ばかりを拾うようになり「これはいかん」と思っていたところに、ひょんなきっかけで軽井沢に来ることがあり、ぴっぴを知りました。そしてぴっぴに一目ぼれ。そこから6年ぴっぴへの愛が膨らむ日々です。子どものためと思いながら引越しましたが、結果私や家族のためになっていることばかりです。自然の厳しさが増すほど比例する仲間の温かさ、卒園してから一層有難くなる仲間との繋がり。今のぴっぴを楽しみにサポートしています！普段はホームページの制作や管理などPC作業ばかりしています。

一人時間にソファに横たわって、テレビ見ながらポテトチップス食べるのが最高の時間です。

米田典子（よねちゃん）

平尾山登山（おおきいくみ）

ちょっぴり写真館

